

水稲高密度播種苗移植栽培における葉いもち・初期害虫の防除

【1 成果概要】

- (1) 水稲高密度播種苗移植栽培（播種量：乾籾 250g/箱以上）における葉いもち及び初期害虫（イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ）の防除には、移植時の薬剤側条処理（1kg/10a）が有効です（表）。
- (2) 高密度播種苗に対して、農薬使用基準に従って箱処理（50g/箱）を行った場合、葉いもちに対する防除効果が十分でないことがあるため、箱処理は避けてください。

表 高密度播種苗移植栽培における箱粒剤の使用法による防除効果

	Dr.オリゼフェルテラ粒剤		Dr.オリゼリディア箱粒剤	
	側条処理	箱処理	側条処理	箱処理
葉いもち	◎	△	◎	△
イネミズゾウムシ	○	◎	◎	◎
イネドロオウムシ	◎	◎	◎	◎

※病害虫に対する効果は、◎：優れる、○：有効、△：劣る であることを示す。

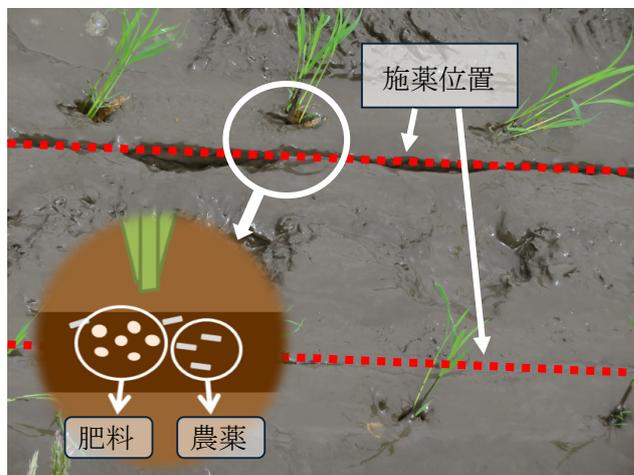


図 田植機に取り付けられた側条施薬装置（左）と施薬イメージ（右）
※赤い点線は施薬位置を示す

【2 留意事項】

- (1) 移植時の薬剤側条処理を行う場合、専用の側条施薬機を移植機に装着して行う必要があります（図）。
- (2) 穂いもちの防除体系は、県防除指針記載の移植栽培に準じます。
- (3) プロベナゾール以外の殺菌剤を側条処理した場合、いもち病に対する防除効果が劣る事例が確認されています。